



2018年 **新潟市**の取り組み

「日本一安心な政令市」の確立
～持続可能なまちづくりへ 新たな船出～



新潟市長 篠田 昭



■ 平成30年度予算編成

平成17～26年度まで

政令市の土台をつくる合併建設計画の着実な推進
～ 積極型の予算編成

平成27・28年度

積極型の予算編成から
平時の予算編成へ移行する軟着陸期間

平成29・30年度

持続可能なまちづくりのために
財政も持続可能にする期間

- ▷ プライマリーバランスを黒字化
- ▷ 基金を確保・積み増し，基金に頼らない予算編成
- ▷ 市債残高の着実な減少に向けた土台づくり



■ 平成30年度予算編成

- ▷ 平成29年度末の**基金残高が33億円**に減少
- ▷ 平成30年度予算編成の当初段階で、
財源不足119億円の見込み

重点課題への対応をしっかりと行いながら、
「収支均衡」と「市債残高の抑制」を目標に予算編成

- ◆ 内部組織の改革
- ◆ 全庁をあげた事務事業の洗い出し
- ◆ 公債費の積立ルールの変更

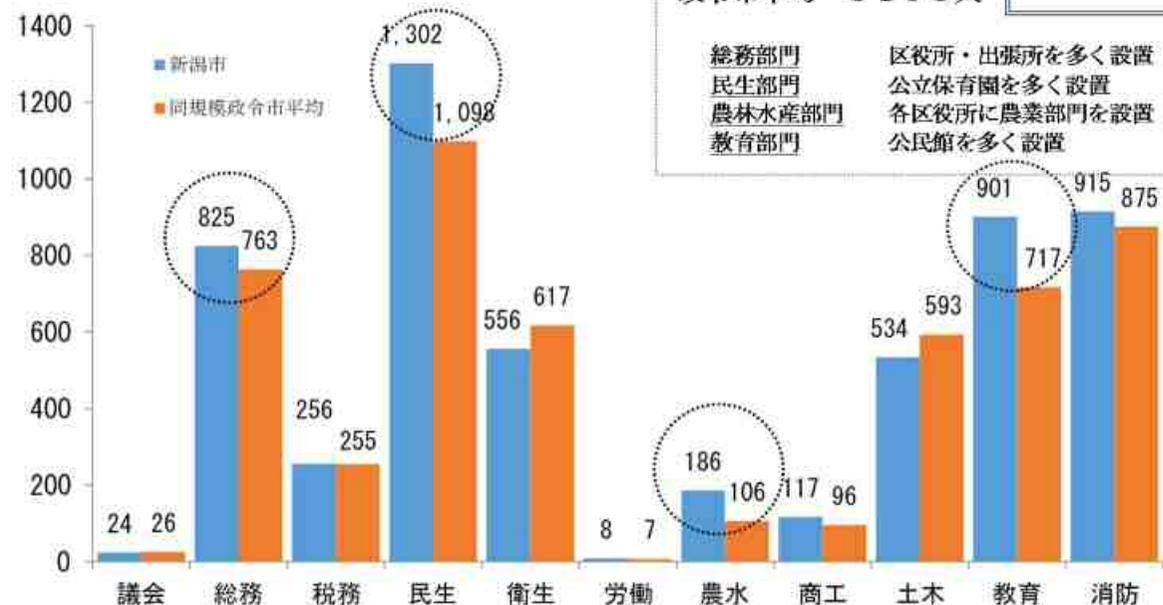
市民サービスへの影響を最小限にしながら、
「安心政令市にいがた」を目指し取り組みを実施



組織・職員配置の適正化に向けた取り組み

- ◆ 次期行政改革プランの策定を前倒し
- ◆ 定員配置計画の早期策定【最終目標値△470人】
- ◆ 地域での役割や市民サービスの向上の観点を踏まえ、利用実態を考慮した出張所、連絡所のあり方を検討
- ◆ ICTやアウトソーシングの活用

●市職員の同規模政令市との比較 (普通会計・部門別)



※「同規模政令市平均」とは、千葉、相模原、静岡、浜松、堺、岡山、北九州、熊本、新潟の9市人口1万人あたりの部門別平均職員数を算出し、新潟市人口にあてはめることにより算出したもの。H29.4.1現在比較



「安心政令市にいがた」を目指して

「にいがた未来ビジョン」に掲げる
3つの都市像

市民と地域が学び高め合う
安心協働都市
「地域力・市民力」

田園と都市が織りなす
環境健康都市
「大地・田園の力」

日本海拠点の活力を世界とつなぐ
創造交流都市
「日本海拠点の活力」



□平成30年度予算の規模

一般会計 3,802億円

〔平成29年度 3,975億円〕

特別会計 2,340億円

〔平成29年度 2,415億円〕

企業会計 1,264億円

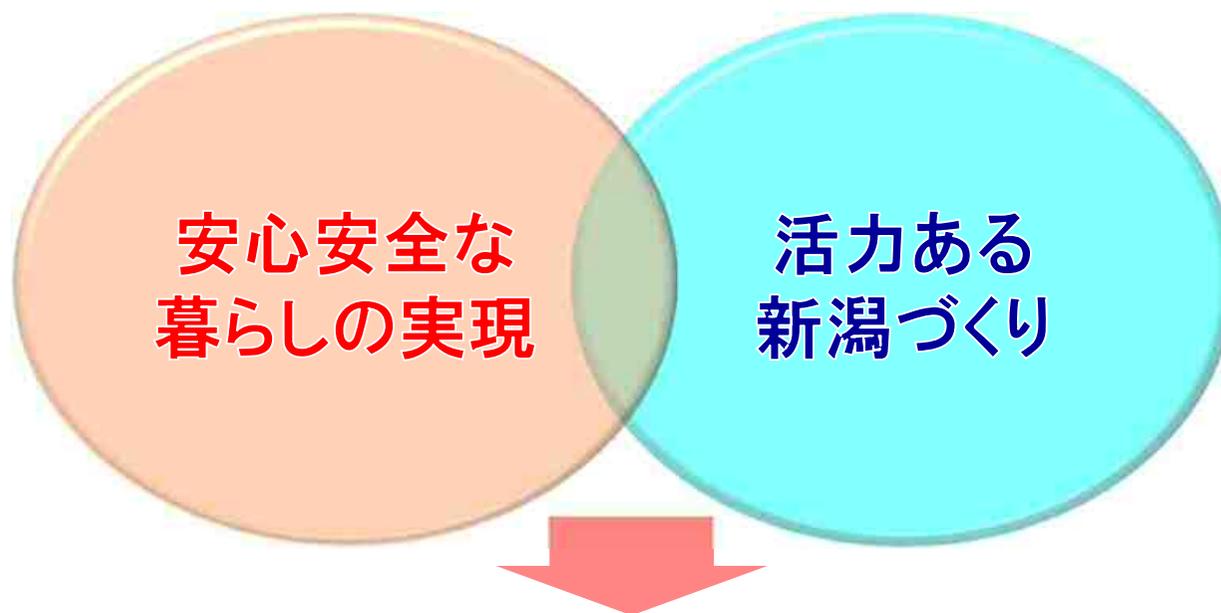
〔平成29年度 1,269億円〕

新潟暮らし創造運動



■ 新潟が世界に開かれた港になって**150周年**の節目

- ▷ **持続可能な財政を構築**
- ▷ 「**安心安全な暮らしの実現**」と「**活力ある新潟づくり**」を両輪



政令市新潟の拠点化とまちづくりを前進！

新潟駅の周辺整備

みなとまち。
みらいまち。
新潟市



新潟駅の在来線高架化(第一期開業)

2018年4月15日
開業

◆上越新幹線「とき」と
特急「いなほ」の
同一ホーム乗り換えが
実現！

◆2か所の踏切撤去
(越後線の高架化完了)

JR在来線で南北に
分断されていた市街地
の一体化



開業後、同一ホームとなった乗り換えの様子

民間活力を引き出し、まちづくりを加速

2019年G20農業大臣会合新潟開催決定

みなとまち。
みらいまち。
新潟市



◆2008年G8労働大臣会合, 2010年APEC食料安全保障
担当大臣会合, 2016年G7農業大臣会合を**連続して開催**

◆これらの経験を活かし, **県・市連携による誘致活動を実施**(2017.7~)

◆2019年開催の**G20農業大臣会合の新潟開催決定**(2018.4.2)

(G20サミット首脳会合は大阪市, 財務相・中央銀行総裁会議は福岡市で開催 ほか)

4回連続開催は
新潟市のみ!

2019年G20新潟農業大臣会合概要

日程 : 2019年5月11日(土), 12日(日)

会場 : 新潟コンベンションセンター 朱鷺メッセ

G20の規模

☆全世界における人口, 農地の**約6割**

☆ " 農産物貿易の**約8割**

➡ **地域全体で各国代表を迎え入れる体制を構築!**



朱鷺メッセメインホールにて記念撮影する
G7参加国・国際機関の代表(2016年4月)



←地域ボランティア
による一斉清掃活動

中学生ボランティア→
によるパノラマガイド



市民のホスピタリティと新潟ならではのおもてなし

新潟開港150周年記念事業

みなとまち。
みらいまち。
新潟市



2019年1月1日

新潟は開港150周年を迎えます

Starting port

みんなで作る、みなとまち新潟スタート!



◆ キックオフイベント「海フェスタにいがた」

▷ 2018年7月14~29日

新潟港(新潟市・聖籠町), 両津港(佐渡市)を会場に開催

◆ 記念事業「水と土の芸術祭2018」

▷ 2018年7月14~10月8日

メイン会場: 万代島多目的広場「大かま」



◆ 新たな「みなとまち新潟」ブランド『Nii port』

◆ 企業・市民の企画・応援制度『TEAM Nii port』



平成30年度の新潟市の取り組み



都市像Ⅰ

「市民と地域が学び高め合う、安心協働都市」



ずっと安心して暮らせるまち

■ 「地域包括ケアシステム」の深化・推進に向けて

◆ 介護予防・日常生活支援総合事業

▷ 住民主体の活動等によるきめ細かな支援の充実

◆ 支え合いのしくみづくり会議・推進員の活動強化

▷ 地域の支え合い活動の一層の推進，有償の助け合い活動の強化

◆ 地域包括支援センターの機能強化(27圏域→29圏域)

◆ 認知症初期集中支援チームの全市展開(2チーム→4チーム)



「地域力・市民力」
を活かした
支え合いの
しくみづくり



男女共同参画の推進・子どもを安心して産み育てられるまち

■ 妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援

◆ 出会いと結婚の支援

▷ 婚活支援の取り組みを行う地域や民間による**ネットワークを構築**

▷ **結婚新生活への支援**

◆ 安心して子どもを預けられる環境づくり

▷ **私立保育園等**の建設費補助を拡充

▷ **放課後児童クラブ**の受け入れ環境の充実

◆ 空き家活用リフォーム支援のメニューに

子どもの居場所(子ども食堂)を追加

◆ **にいがたっ子すこやかパスポート**対象拡大 (小学生以下 ⇒ 中学生以下へ拡大)





学・社・民の融合による教育を推進するまち

■ 「新潟らしい教育」を充実

◆ 子どもたちの地域への愛着と誇りを育む

▷ 新潟発わくわく教育ファームの一層の推進

▷ **大好きにいがた体験事業**

「新潟の良さを伝え、愛着を育む教育推進校」を指定

小・中学校から、引き続き**中等教育学校**、**市立高等学校**で実施



◆ **教員の多忙化解消**や**働き方改革**

▷ 学校事務支援員の配置

▷ 部活動指導員の配置

◆ **新通小学校分離新設校建設事業**

(2020年4月開校予定)





都市像Ⅱ

「田園と都市が織りなす、環境健康都市」



人と環境にやさしい にぎわうまち

■ 健康寿命の延伸に向けて

◆ 企業・団体と連携し、『健康経営』を推進

- ▷ 企業や団体などと**推進体制を構築**
- ▷ 本市独自の**健康経営認定制度を創設**

◆ にいがた未来ポイントの実施

◆ にいがたちよいしおプロジェクトの推進

◆ 「見える化」した健康度にもとづき、

地域課題に応じた取り組みを実践

◆ 地域版にいがた未来ポイント・健康寿命延伸アワード

企業や地域との連携により、**健康寿命を延伸**

「健康経営®」はNPO法人健康経営研究会の登録商標です。



新潟県立大学の学生との
コラボによる「ちよいしおメニュー」



人と環境にやさしい にぎわうまち

■ まちなか活性化

NEXT21へ中央区役所移転

➢ 中央区役所移転後、古町の人の流れが変化



H29.8.14 移転オープン



【大和跡地再開発ビルの完成イメージ】

大和跡地再開発

- 再開発ビルへの支援
- 市役所本庁機能の一部移転に向け、
(仮称)市役所ふるまち庁舎の整備に着手

新庁舎オープン：2020年5～6月頃を予定

◆ 次世代につながる魅力ある店舗づくりを支援

民間活力を引き出しながら、まちなか活性化



人と環境にやさしい にぎわうまち

■ バス利用者数の減少に歯止め



バス利用者数は開業後1年目は0.8%、2年目は2.5%と着実に増加
⇒減少に歯止め

1年目	開業前 (H26.9～H27.8)	開業1年目 (H27.9～H28.8)	開業1年目 ／開業前
開業前後の 利用者数比較	約1,986万人	約2,001万人	<u>+0.8%</u>

- ・ 新潟交通提供データをもとに、のりかえによる利用者の二重計上を市が補正。
- ・ 開業前にデータのない大野・白根線等は含まない。・H28.2月はうるう年のため、28日間の利用者数として算出。

2年目	開業1年目 (H27.9～H28.8)	開業2年目 (H28.9～H29.8)	開業2年目 ／開業1年目
開業1年目と2年目の 利用者数比較	約2,291万人	約2,349万人	<u>+2.5%</u>

- ・ 新潟交通提供データをもとに、のりかえによる利用者数や大野・白根線等を含んで比較。
- ・ H28.2月はうるう年のため、28日間の利用者数として算出。

持続可能なバス交通の土台を構築



人と環境にやさしい にぎわうまち

■ 健幸都市づくり「SWC」をさらに深化

健康づくり

- ◆ **にいがた未来ポイント**の実施
- ◆ 企業と連携した
健康経営の推進

健幸都市
づくり
「SWC」

まちなか活性化

- ◆ 大和跡地の**再開発支援**
- ◆ 次世代につながる
魅力ある店舗づくりを支援

持続可能な公共交通体系の構築

- ◆ 新バスシステムの推進
- ◆ 生活交通の**バリアフリー化**
(区バスへの小型ノンステップバスの導入)
- ◆ 公共交通の利用促進
 - 「**シニア半わり**」を継続
 - 2つの**新駅設置**の実現に向けた調査検討





誰もがいきいきと働ける環境づくり

■ 女性や若者などが働きやすい環境づくり

◆ 働き方改革の推進

- ▷ 働き方改革を推進する**事業所を表彰**
- ▷ 経営者向けセミナーの実施
- ▷ 各種支援制度の**情報発信を強化**

◆ ワーク・ライフ・バランスの推進

- ▷ 男性の育児休業取得を促進
相談窓口の設置
- ▷ 働く女性のネットワークづくり

◆ 産業界と連携した市内就労の促進 (UIJターンの促進)

- ▷ 学生・若者への市内企業の魅力発信

【H29年度 WLB表彰事業所】

- NTTコミュニケーションズ（株）
第二営業本部新潟支店
- 亀田製菓（株）
- ダイニチ工業（株）
- (医) 泰庸会 新潟脳外科病院
- (株) 博進堂
- (株) 富士通新潟システムズ



ホームページ【にいがたで働こう】



地域資源を活かすまち

■ 12次産業化を官民一体で推進

▷ 本市の強みである田園資源を「子育て」「教育」「福祉」など、**6つの分野**で活用



◆ 12次産業化優良事例の表彰

▷ 田園資源を独創的・効果的に活用している優良事例を表彰

H29 優良事例賞

社会福祉法人 親和福祉会
「秋葉区六条大麦プロジェクト」
田園資源×農業，福祉，子育て，保健・医療



「大地・田園の力」を最大限活用



都市像Ⅲ

「日本海拠点の活力を世界とつなぐ、
創造交流都市」



新潟にふさわしい役割を果たし成長する拠点

■ 持続可能な農林水産業の確立

◆ 「稼げる農業」を目指して

▷ 元気な農業応援事業

⇒ 高収入な園芸作物導入による経営改善や規模拡大への支援など，魅力ある農業の担い手を育成



■ 農林水産物の販路拡大

◆ 安心安全な農林水産物の確保

▷ GAP認証の導入支援

◆ 多様な販路の確保

▷ 農産物の輸出促進

⇒ 米と酒を中心としたプロモーション映像を制作





ニューフードバレー構想の推進

◎ **規制改革は着実に進行中!**

1 国家戦略特区の規制緩和を活用した主な取り組み

① 企業出資による特例農業法人の設立

- ◆ 9社が農業参入！コンビニ4,000店舗超でおにぎり販売，耕作放棄地の解消，酒米を使用した日本酒の製造・販売，G-GAP取得



日本農業の
改革拠点へ

② 農用地域での農家レストラン設置

- ◆ 全国初となる農家レストランが3店舗オープン！年間来客数87,000人，新規雇用24人を創出！



③ 健康づくり応援食品認定制度の創設

- ◆ 機能性に関する科学的な報告がある成分を含む食品や，健康づくりに配慮された食品を新潟市が独自認定！これまでに7品認定



丸麦，くろさき茶豆 落雁Ca茶豆，
塩分0% 味噌風味調味料など

④ 農業への信用保証制度の適用

- ◆ 農業者による6次産業化や商工業者の農業参入など多様な事業に効果を発揮！
- ◆ これまでに22件，約2億4,000万円を融資！



⑤ 市街化調整区域での民泊施設設置

- ◆ 田園型都市の特色である農業体験や食，自然を活用したグリーンツーリズムの推進に向けた特区民泊がオープン！





ニューフードバレー構想の推進

2 国家戦略特区の波及効果等

⑥ 企業と連携したアグリプロジェクト

- ◆ 大手企業や農業ベンチャーと連携し、ICTを活用した実証実験を実施
- ◆ 市内農業ベンチャーもプロジェクトに参画
- ◆ 省力化，生産コスト低減，次世代型農業の導入に成果



水田センサ，ドローン，ICTコンバインなどを用いた実証実験

《1月トピック》
メドベージェフ選手に
G-GAPを取得した
ミニトマトを贈呈！



⑦ 新潟県内初のオランダ型植物工場

- ◆ 植物工場による野菜生産が盛んなオランダの栽培技術を取り入れた環境制御型栽培施設が西蒲区で稼働！
- ◆ 農水省の「産地パワーアップ事業」を活用



2haの施設規模は県内最大，ミニトマトを通年栽培

3 これまでの実績・成果を土台に更なるステップ・アップへ！

- ◎ 今後は「外国人材の受け入れ」や国が創設する「レギュラトリー・サンドボックス制度」など，新たな規制改革事項の活用を検討。
- ◎ 国家戦略特区をフル活用し，新潟市を日本農業の改革拠点へ！



雇用が生まれ活力があふれる拠点

■ 内発型産業の育成・創業支援

◆ 生産性向上による競争力強化と人手不足対応

- ▷ 中小企業の**生産性向上に資する**
設備投資へ補助



◆ 今後増加の見込まれる中小企業の**事業承継**を支援

- ▷ 新潟IPC財団に専門人材を配置し、相談体制を強化

◆ 企業の進出ニーズへの対応

- ▷ ICT企業向け**オフィスビルのリノベーション**支援制度を創設
- ▷ 新たな工業用地の確保

既存産業の高度化を図りながら成長産業を育て、
働く場を創出



雇用が生まれ活力があふれる拠点

■ 航空機産業の集積

- ◆ 効率的な生産体制の構築，受注獲得に向けた支援
 - ▷ 戦略的複合共同工場(南区)において**全区画での稼働を開始**
 - ▷ **航空機のトライ部品の製作や人材育成を継続支援**

NIIGATA SKY PROJECT



JASPA共同工場(西蒲区)



NSCA戦略的共同工場(南区)



■ ICTなどを活用した実証事業等の支援

- ▷ 多様なフィールドをもつ本市の特徴を活かした
先端技術による新しいビジネスの創出を促進



魅力を活かした交流拠点

■独自の魅力を活かした交流促進

◆ ジャポニスム2018への参加

- ▷ 本市の伝統文化や芸術を紹介し，
国外に魅力を発信

【ジャポニスム2018】

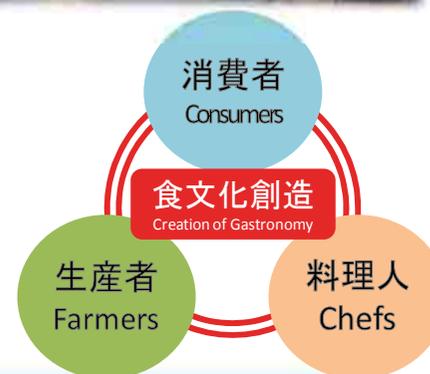
日仏友好160周年にあたる
2018年にフランスで開催される
日本文化の紹介行事

◆ 食文化創造都市の確立

- ▷ レストランバスの活用などによる
ガストロノミーツーリズムの構築
- ▷ 生産者・料理人・消費者の関係づくり支援
- ▷ 若手料理人の育成支援



◆ 「全国ねぎサミット2018inにいがた」の開催



食と農と文化を融合させ，交流人口を拡大



2018年 新潟開港150周年コア期間スタート

7月14日～ 海フェスタにいがた
水と土の芸術祭

2019年 1月1日 新潟開港150周年

G20農業大臣会合
国民文化祭

JR東日本デスティネーション・キャンペーン

2020年 東京オリンピック・パラリンピック



全県をあげて空港・港湾・交通を活性化！





防災・救援首都の機能強化

■ 足元の安心安全の確保

■ 救援・代替機能の強化

◆ 新潟駅周辺整備事業（2006～2023年度予定）

- 在来線の高架化，幹線・生活道路の整備，駅前広場及び高架下交通広場の整備により，
 - ・ 鉄道で分断されていた南北市街地の一体化
 - ・ 踏切の解消（2箇所）と交通の円滑化
 - ・ 県都新潟の陸の玄関口としての顔づくり
 - ・ 交通結節点の機能強化，将来的な基幹公共交通軸の形成

◆ 新潟中央環状道路の整備事業の推進

◆ 新潟空港，新潟港のさらなる活性化

有事にも機能する平時からの拠点性の強化





魅力を活かした交流拠点

■ 多様な来訪者の獲得

◆ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて

▷ **アーツカウンシル新潟**の支援により、
多様な**文化プログラム**を推進

▷ オリ・パラに向けた
ナショナルチームの**合宿誘致**の推進

⇒ **フィギュアスケート・ロシア選手の合宿を実施！**（1/28～2/18）

▷ **障がい者スポーツ**の推進
（日本車いすカーリング選手権開催）

◆ 「**新潟プラス・トーキョー**」運動の展開

海外から来られる方々の滞在本拠地を新潟として、
上越新幹線などを利用し東京で観戦

- 国民文化祭の開催
に向けた準備
- アール・ブリュットの展開
- アート・ミックス・ジャパン、
がたふえす、光の響演 etc



新潟アサヒアレックスアイスアリーナ



世界とつながる拠点

■ G20農業大臣会合

(2019年5月11日，12日開催)

■ 観光客おもてなし態勢の促進

- ◆ 新潟駅からつながるストーリー性のある観光エリアを形成
- ◆ 受入態勢整備(観光コンテンツ開発・外国人対応)

■ 外国人の誘客促進

- ◆ 知名度向上と海外セールスの強化

■ 県内外の都市との広域的な連携

- ◆ 北前船寄港地など様々なテーマでつながる都市との連携

■ クルーズ客船誘致の推進

- ◆ 寄港回数 H29年度 7回 ⇒ H30年度(予定) 13回へ
(うち西港11回，東港2回)



G7農業大臣会合の際の様子



Km-0 niigata lab

国内外からの誘客を促進

「新潟暮らし創造運動」

みなとまち。
みらいまち。
新潟市



「新潟暮らし創造運動」



新潟暮らし創造運動

「新潟暮らし創造運動」

みなとまち。
みらいまち。
新潟市



■ 人口の流入促進に向けた取り組み

◆ 移住希望者への的確な対応

- ▷ **生活コスト見える化サイト**の構築
- ▷ 首都圏での相談対応

◆ 新潟暮らしへの憧れの醸成

- ▷ WEBを活用した効果的な広報
- ▷ **LINE@によるプッシュ型の情報発信**



■ 人口の流出抑制に向けた取り組み

◆ 若者への魅力発信の強化

- ▷ 大好きにいがた体験事業との連携による地域への愛着教育
- ▷ 新潟暮らし魅力発見・発信HP「**ガタブラ**」による発信

◆ 魅力の発見・発信力の強化

- ▷ 移住者交流会の実施



新潟暮らし創造運動



■ 移住の受け入れを促進(移住モデル地区)

◆ HAPPYターンモデルへの指定

地域が主体となって移住・定住の取り組みを行い、実績のある地区

▷ 第1号の西蒲区越前浜地区に続き、
第2号として秋葉区小須戸地区を指定

【支援内容】

- ①引越し費用支援 ②住宅取得支援
- ③賃貸住宅支援 ④リフォーム費用支援加算 など



小須戸地区の移住モデル地区
指定式の様子

◆ 移住推進モデルの募集と指定 **！ 随時募集！**

地域が主体となり、積極的に移住に関する取り組みを始めようとする地区

▷ **秋葉区朝日地区と秋葉区金津地区**(H30年1月4日指定)

- 移住に関する取り組みを始めるなど、頑張っている地域団体が自ら立候補
- 首都圏などへの情報発信を支援

移住・定住の促進と地域の活性化へ

人口減少に対応した地域づくり

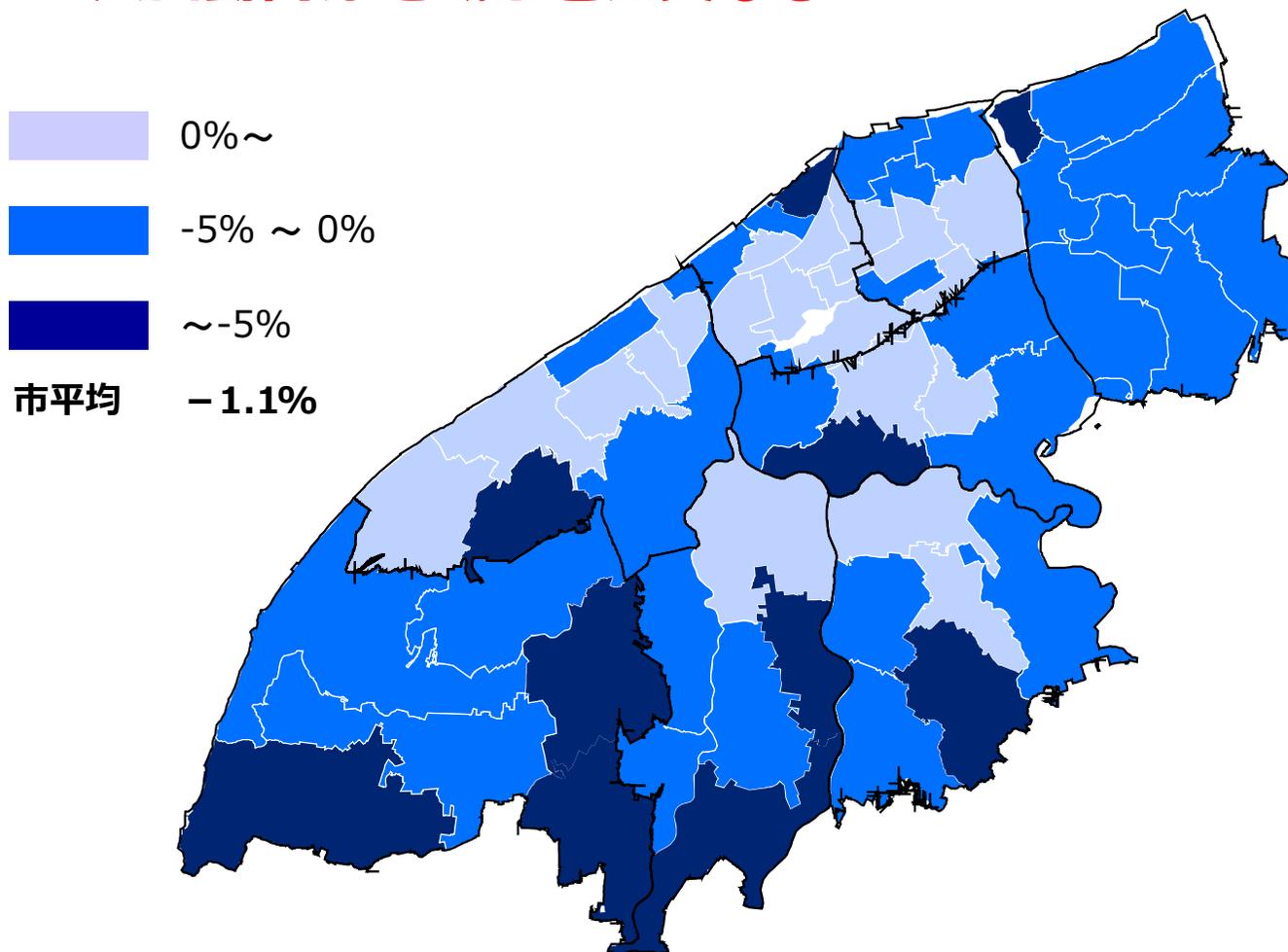
みなとまち。
みらいまち。
新潟市



中学校区別人口増減率（2011年⇒2016年）

- 北区，西蒲区は，全ての中学校区において人口が減少している
- 東区を除く7区において**5%以上減少**している中学校区が存在

⇒ **人口動向は地域ごとに異なる**



人口減少に対応した地域づくり

みなとまち。
みらいまち。
新潟市



市

新潟市まち・ひと・しごと創生総合戦略

区

区ビジョンまちづくり計画

地域

地域課題に応じた取り組みを実施



- 地域カルテ^(※)により地域の人口動向を**見える化**
- 地域が使える補助メニューを取りまとめ
- 各地域の取り組み事例を取りまとめ

※ 地域カルテとは、中学校区単位での過去の人口推移や将来の人口推計、公共施設の配置状況等のデータをまとめたもの

H29地域ミーティングを皮切りに
地域における取り組みの実践をスタート!!



持続可能なまちづくりへ 新たな船出

～新潟開港150周年を契機に、
地域・産業界など新潟の総力を結集したまちづくりを～



ご清聴ありがとうございました